

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2971800038		
法人名	川西町		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	平成22年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-nara.jp/kai gosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 なら高齢者・障害者権利擁護ネットワーク		
所在地	奈良市内侍原8番地 ソメカワビル202号		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>恵まれた外部環境とともにゆったりとした居住空間をもって、それぞれが穏やかに生活を送っていただけるよう取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>行政が運営主体の複合施設で、共用空間や居室は広く、設備などは充実している。運営を委託された法人との連絡は密にはかられており、役割分担が明確にできている。職員は委託先の法人で研修を受け、日々実践に取り組んでおり、家族からの評判も良い。利用料も安く、ゆったりとした清潔感漂う施設である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

※セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	4項目の独自理念があり、毎日それを意識し努力している。 尚、各自理解できるよう努めている。	理念に沿った支援について配置換え時や、管理者が気づいた時に各自に話している。職員は以前に理念を毎日斉唱していたこともあって浸透しており、言葉かけや接し方に注意している。	今年の目標「利用者さんに対する言葉かけに注意していこう」が、日々実践に生かされるよう期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地的に行いにくい、周りが田畑で、畑に作業しに来る人とのつながりを大切に、よく世間話をしている。 町の行事にははできるだけ参加するよう心がけている。	事業主体が行政であるため自治会には参加していないが、町内の行事や、隣接のデイサービスの行事に参加したり、施設前の畑の方たちと話をするなど交流をもっている。ハーモニカや話相手のボランティアの方が来られている。地元中学生の職業訓練を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学、実習、相談等の機会を活かしている。 積極的にはおこなっていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回おこなっている。 参加者は自治会長、家族代表、地域包括支援センター職員、管理者、GH主任で施設の現状や課題について話し合っている。	2ヶ月に1回開催され議事録もとられている。出席メンバーがほぼ決まっており、施設の内情が理解されていて、評価結果や事故などの現状報告がされている。地域包括支援センターから医療に関するのアドバイスを受けるなどの意見交換が行なわれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が事業主体で運営を委託されているので連携を密にしている。	事業主体である行政の健康福祉課と、連絡を密に取りながら運営している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は日中はおこなっていない。 拘束をしないケアに努めている。 研修もおこなっている。	法人で(認知症の人への声かけ)についての発表を行い、それに先立って職員で話し合い、身体拘束についてより理解を深めた。拘束をしないリスクについて家族と話し合っているが、転倒、骨折などの事故もあり利用者への支援のあり方に悩んでいる。	大腿骨を骨折された利用者の退院後、家族同意のもと夜間のみ抑制帯を使用したことがあり、使用記録はとられているが、家族の同意書も作成しておかれることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会をおこない、日々意識付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については概ね理解できるが、細部については学ぶ機会を得ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方の不安や相談等契約時のみでなく、日ごろから十分コミュニケーションを図り、話せる環境をつくっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の方の要望等はできる限り受け止めている。 なお、運営推進委員会でも議題として話し合っている。	家族面会時には声かけをし、言いやすい雰囲気を作っている。家族からは訪れやすいと評判がよい。川西町役場健康福祉課が相談窓口となり、苦情処理委員会を作り、体制を整えているが、今のところ苦情はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議、または日々、意見提案できる機会を設け、反映できるようにしている。	月1回のケア会議では、散歩に行けない日の足踏み体操や入浴時間の変更などの提案がされ、職員の意見やアイデアをケアに生かすための話し合いがされている。緊急会議が開催されることもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で計画的に行っている研修会には多くの方が参加し、トレーニングを行っている。尚、参加できないものについては研修記録を確認している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人内の特養・デイサービスとの交流はあるが、他の施設との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションを図り、傾聴できるよう努めている。 また、入所時に家族等の要望等聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、または相談に来られた場合聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ドライブや神社参り、畑の収穫等ともに喜びを感じていくようにしている(季節の行事)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で本人の馴染みの人たちの話を聞かせていただいたり、思い出が途切れぬよう努めているが、レベル低下のため難しくなっている。	近所の方が遊びに来られたり、家族同伴で外出される人などおられるが、難しくなっている人も多く、日常の会話のなかで昔話を聞くように努めている。管理者はデイサービスの管理者を兼務しており、デイサービス利用者との交流がはかられている。家族がよく面会に来られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	年々レベル的に低下してきて関わり合いも少なくなってきたり、職員を通じてのコミュニケーションとなることが多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GH退所後は、ほとんどの方がGH委託先と同じ法人の特養へ入所されるので職員が特養へ訪れた際に面会している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で本人の思い、意向を感じることができており、意に添えるように努めている。表現できない方については会議や引継ぎのときに職員同士で検討している。	日常会話のなかでの気付きや利用者のつぶやきを個別ケア記録に残し、常に反応に注意しながら職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居されるときに家族より聞くとともに、常に情報を得るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人のペースを大切にしている。心身状態もその日その日の状態に合わせてるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者または家族の意向を踏まえて利用者本位の介護計画を作成するように努めている。	記録・連絡ノート・ケア会議で出された意見をひろい上げ、ケアプランを作成し、家族に説明している。ケアマネージャーは週2回来て、モニタリングしている。	カンファレンスは職員のみで行っており、家族の意見が反映されにくい。定期的なケアプラン見直しの評価が明確でなく、見直し反映されるような記録の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	月1回のGH会議や日々の気づきを通して見直し、実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズにあった対応ができるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今のところできていないと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	書面、及び職員の付き添いによってかかりつけ医とのかわりを持っている。	行政主体の施設であるため医師会が協力医になっているが、利用者それぞれが以前からのかかりつけ医を利用している。家族同伴の通院が多く、時には職員が同伴している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の変化を早急に気づき、看護師へ相談または、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報を共有できるように努めるとともに、面会時病院関係者と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、できる限り支援するように心がけ、今後の方針を家族とともに話し合いを行っている。終末期については、職員の配置、かかりつけ医の受け入れ等の問題により行っていない。	施設受け入れ時に、行政担当者から今後についての説明（重度化時の新たな受け入れ施設を家族が探すなど）をし、受け入れている。終末期対応については、体制が整っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、勉強会をおこなっており、近隣居住の職員の協力を得ている。（特に夜間の場合）		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はできていないが、消火設備、非常口の確認は行っている。地元消防団の協力を得ている。（推進委員会できりあげている）	防火管理者は隣接の社会福祉協議会が担当しており、デイサービス職員など昼間の避難誘導の人員はあるものの、合同の避難訓練や、単独での訓練は行なわれていない。スプリンクラーは今年度中に設置予定である。	昼間の合同避難訓練や、夜間はグループホーム職員が1名になり、避難時の判断が委ねられているため、より具体的な火災、災害を想定しての避難誘導訓練を実施されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	再度このことについては、注意しなければならないよい機会だと思う。	今年の目標に「利用者さんへの言葉かけに注意しよう」をあげ、法人本部での研修も行なわれている。職員は名字で呼びかけ利用者の気持ちを大切に支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、意に添うができない方には、表情・態度を気にかける。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の中でペースをあわせられる様にしているが、できていない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の希望に添える身だしなみをおこなっている。(ヘアスタイル、服装)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々にできることを手伝ってもらっているが、決まった人に手伝ってもらうことが多い。行事のときの食事は季節感を楽しめるようにしている。	朝、夕食はメニュー、材料は決まっているが、職員それぞれが自分流にアレンジし、手作りにしている。昼食はデイサービスで調理している。手作りのおやつや誕生日のケーキ作りなど利用者の好物と一緒に作り、楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士の元でのメニューであり、量はその日の体調や体重増加等を見ながら調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後にはうがい、または義歯をはずして洗浄、夜間は預かりで洗浄剤を用いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導、随時誘導をおこなっている。	排泄表を作成し、職員は個々の排泄リズムを把握している。定期、随時にポータブルトイレに誘導し、オムツや紙パンツはずしに努力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックに記入し、全職員が把握し、予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつでも入浴できる体制はあるが、基本的には夕食前、15時30分から開始している。	24時間循環式のため何時でも入浴できるが、概ね隔日、午後から入浴している。入浴を拒否される人が3名程おられ、楽しんでもらえるようにゆず、しょうぶ、ミカン風呂にするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時から本人が使用していた布団を使用している。 温度調整等気をつけるとともに、本人の意に添うように支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	説明書に記載している内容を把握し、職員全員が確認し合い、症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	音楽療法、レクリエーション等を工夫しながら行っている。 おやつ作り等の工夫をする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により戸外にでかけて日光浴やドライブ、買い物を楽しむ。 最近、外出機会が少なくなっていると思う。	おやつや材料の買出しや食事会、お花見など外出している。隣のデイサービスとは月3回交流があり、天気の良い日は散歩に出かけたり、前庭でおやつを食べながら日光浴、外気浴をしている。毎朝、少し離れた新聞受けに新聞を取りに行かれる利用者もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣い管理は職員が主であり、本人が使用する機会は少ない。 自己管理ができる方は9名中1名である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば意に添うようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日清掃に努め、居心地の良い清潔な空間作りに努めている。 観葉植物を置いたり、外回りには畑を作ったり、花壇には季節の花を植えている。	行政が運営主体のホームであるため、施設全体が広く、ゆったりしている。設備面も全室にオゾン装置が設置され、食堂には介護用テーブルが置かれ、24時間循環式風呂、水道も全自動と充実している。広い施設内は掃除も行き届き、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決まった空間の中で工夫をしており、居室にてテレビを利用される方もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを置けるようにできるだけ考えているが、収納スペースが広いので、実際に使われている家具を持ち込まれる方が少ないのが現状ある。	作り付けの収納庫、キャビネット、ベッドは設置されているが、カーテン、壁紙は部屋ごとに変えてあり、布団は各自持ち込みとなっている。収納スペースが十分なため家具などの持ち込みは少ないが、写真を飾るなど雰囲気作りがされている。洋室と和室があり、身体の衰えから和室を洋室風にかえて使用している部屋があった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーを活かし、トイレや浴槽の手すり等で安全に生活できるよう支援するとともに、見守りを行っている。		